

令和6年度

# 木更津市史編集委員会委員委嘱状交付式 および第1回木更津市史編集委員会

日 時 令和6年7月22日（月）

午後2時から

場 所 木更津市役所朝日庁舎 会議室E

## 委 嘱 状 交 付 式

1. 開 会
2. 教育長あいさつ
3. 委員長あいさつ
4. 報告確認事項 令和5年度編さん部会活動報告及び令和6年度活動計画
5. 報告事項 「史料編4 古代」刊行および「自然編 資料」公開について
6. その他
7. 閉 会

令和6年度木更津市史編さん部会活動計画

部会名	考古部会	部会長名	加藤修司
令和6年度活動計画	<p>以下の計画で令和8(2026)年度 考古1(古墳時代) 考古2(奈良・平安時代、中近世、石造物、人骨)の刊行を目指している。</p> <p>8月 考古部会全体会議 進捗確認</p> <p>12月 原稿・挿図・写真を部会長までデジタルデータで提出</p> <p>令和7年1月 InDesignによる編集開始(部会長)</p> <p>令和7年3月 InDesignによる編集完了(部会長)</p> <p>この間、遺物の再撮影及び遺構等のカラーライドのスキャニング作業を同時並行して作業。</p>		
現在までの実施内容・進捗状況	<p>担当によって進捗の差が著しい。原稿は古墳時代が約70～80%、奈良・平安時代、中近世はほぼ100%、石造物、人骨は未確定ながら見通しは立っている。残る作業として最も大きな課題は、資料のカラー化作業であり、潮見資料庫や金のすず、県文化財課森宮分室での撮影、カラーライドのスキャニング作業などである。</p>		
これまでの取組での課題点・懸案事項	<p>資料のカラー化作業は、稼働日の制限から月に1～2日程度しかできない。潮見資料庫で山積みになっている考古遺物の抽出作業に最も時間がかかるため、事務局も含め、何らかの協力体制が取れないものか、検討いただきたい。</p>		
今後の調査予定・刊行見込み	<p>2026年度 考古1(古墳時代) 考古2(奈良・平安時代、中近世、石造物、人骨)</p> <p>2027年度 考古3(旧石器・縄文・弥生時代) 刊行予定</p>		

部会名	古代 部会	部会長名	吉 井 哲
令和6年度活動計画	<p>『史料編 4 古代』の刊行をうけて、全体の読み直しを行い、誤植や誤記、記載内容に疑問がある点などの抽出を行い。年度末を目処に協議を経て、正誤表の作成を行う。</p> <p>『通史編』の原稿執筆に向けての準備として、目次案の作成・検討や、関係地域の現地踏査を計画し実施する。</p>		
現在までの実施内容・進捗状況	<p>刊行された『史料編 4 古代』の刊行をうけて、可能な範囲で、校閲者を含め部会員全員で記述内容の点検を行い、暫定的な誤植・誤記のリストを作成した。</p> <p>点検作業は継続して実施している。</p>		
これまでの取組での課題点・懸案事項	<p>「史料編」の校正作業において、部会員と文化課担当者と印刷所とのやり取りが円滑に進められないことがあり、度々行き違いが生じてしまった。</p>		
今後の調査予定・刊行見込み	<p>「通史編」の執筆に向けて、その準備として、現地踏査を計画し、実施する（2回程度を予定）</p>		

部会名	中世史部会	部会長名	滝川恒昭
令和6年度活動計画	<p>中世史部会（対面および zoom）を定期的に開催したい。 部会立ち上げ当初からお願いしている下記の寺社・仏像・古文書についての調査を是非実施したい。</p> <p>君津市三田 瑞龍院 里見義弘菩提寺 古文書所在 延命院 里見義弘祈願寺 古文書所在 新御堂 最勝福寺 里見義弘開基 古文書所在 大野台 薬師堂 鱈口 台 光聚院 薬師如来像 銘文 常代 正竜寺 十一面観音像 銘文 木更津市 矢那 栖安寺 古文書所在 犬成 東泉寺 古文書所在 弘蔵寺 古文書所在 富津市 宝竜寺 古文書所在 市原市大坪竜興寺 僧形神座像 銘文 奉免 満蔵寺 正観音像銘札 銘文 古文書所在の有無を優先し、仏像等の銘文については、努力目標。</p>		
現在までの実施内容・進捗状況	<p>4・27 岡田・湯浅・柴・江澤・滝川で顔合わせと打ち合わせを実施。各自の受け持ちを再確認した。 本来部会の中心的存在であった川戸委員が抜けたため、その分を新任の岡田委員と江澤委員に分担してもらうことになる。 その他については、各自の責任において継続的な調査を実施しているところである。近々、部会にて再確認と、編集計画の見直し、具体的な方策を検討するところである。</p>		
これまでの取組での課題点・懸案事項	<p>県外調査・資料収集 調査先との交渉について。 市内・近隣地域の調査もままならない状況では、さまざまな面で難しいことが予想される。</p>		

今後の調査予定・ 刊行見込み	現時点においては不明

部会名	近世部会	部会長名	小関 悠一郎
令和6年度活動計画	<p>○史料調査</p> <p>【重点的に調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 八剱八幡神社：部会作成の既出史料リストに基づき調査依頼</li> <li>• 鈴木真家：『ふるさと富来田の古文書』所収史料を対象。※状況に応じて富来田地区他家も調査した</li> <li>• 織本家：富津市、文書館収蔵県史収集資料とも</li> <li>• 千葉県文書館収蔵諸史料：市外文書とも</li> </ul> <p>【史料所在、調査可否の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 烏海治夫家：『千葉県史』の調査一覧に、「烏海新兵衛日記（安政6）」、「先祖代々記（嘉永2）」あり</li> <li>• 満足山成就寺：「郷土古文書展目録」（木更津市図書館、1952年）に、「八幡宮成就寺境界争後の双方立会絵図」（元禄3年）記載</li> <li>• 巖島神社：司馬江漢・画「木更津浦の図の額」（木更津郷土誌76頁）</li> <li>• 重田家：部会作成の既出史料リストに基づき調査可否確認</li> <li>• 斎藤昌磨家文書：史料調査の可否確認（文化財調査の資料あり）</li> </ul> <p>○部会打合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• オンライン・木更津・千葉で計5回程度開催する。</li> <li>• 各史料群の内容について検討する。</li> <li>• 翻刻・掲載史料を選定する。</li> </ul> <p>○史料翻刻</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 翻刻対象史料を選定するごとに事務局に知らせ、協議の上、翻刻作業者に依頼する。</li> <li>• 作業者：ボランティアの方に調査員として作業してもらうよう依頼する。翻刻対象史料の選定が進んだ段階で近現代部会同様の方法でも進める。また、近世部会委員も一部翻刻作業を行う。</li> </ul>		
現在までの実施内容・進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 部会打合せ（オンライン）の実施（2023年9月、12月）</li> <li>• 掲載候補史料の検討会（6回）</li> <li>• 史料調査：千葉県文書館（小原家〔秋楽家含む〕〈金田・中島〉）、金田公民館旧置史料（秋楽家〈中島〉）</li> <li>• 史料翻刻：小浜大澤家文書（手書き翻刻→データ入力終了）、『上総国望陀郡中島村資料集』所収史料（途中）、佐</li> </ul>		

	久間家文書
これまでの取組での 課題点・懸案事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>史料編の刊行に向けて必要な各文書群の内容把握、掲載史料の選定等の進捗が不十分であり、予定通りの刊行に向けて作業を加速する必要がある。</li> <li>史料翻刻に関して、進め方の方針は定まったが、具体的な体制を調べ、本格的な作業を速やかに展開する必要がある。</li> <li>史料編の内容面、すなわち、記載方法や解説・図版等の構成要素の配置等について、具体的に定める必要がある。</li> <li>史料編の編集にあたって、編集作業がコンスタントに進むよう、事務局の協力を得つつ、部会内の体制・進め方について検討していきたい。</li> </ul>
今後の調査予定・ 刊行見込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>史料調査の予定については上記の通り。</li> <li>上記の通り課題も少なくないが、どうにか計画通り刊行できるようにしたいと考えている。一層のご協力が得られれば幸いである。</li> </ul>

部会名	近現代部会	部会長名	池田 順
令和6年度活動計画	<p>千葉県文書館・千葉県教育会館での史料の調査・収集を継続する。来年度において史料編第1巻を刊行するため、今年度中に各委員が担当する節の掲載候補史料の選定と筆耕を終了する予定である。</p> <p>まだ十分に収集ができていない宗教関係史料のうち、とくにキリスト教教会の史料調査を行いたい。</p>		
現在までの実施内容・進捗状況	<p>近現代史料編第1巻（明治初期～昭和初期）の大まかな構成と各節の掲載史料選定の担当者を決めた。そして、これまで収集してきた各種機関・団体、家文書の史料から、各委員が担当節の掲載候補史料の選定を行い、史料等の筆耕を進めている（進捗状況60%程度）。それとともに、千葉県文書館で新聞記事の調査・収集（進捗状況80%程度）、千葉県教育会館所蔵の『千葉教育』から教育関係記事の調査・収集（進捗90%程度）を行っている。また、従来十分に収集できていなかった宗教関係史料については、選擇寺と八剱八幡神社の所蔵史料を多少撮影できた。そのほか、袖ヶ浦の多田家、畑沢の水越家からも史料の提供を受け、目録作成、撮影を行った。</p>		
これまでの取組での課題点・懸案事項	<p>史料編の刊行にあって、掲載する史料の細々としたレイアウトなどは業者が行ってくれるようだが、委員と業者との間で緊密な連絡がとれるように配慮してほしい。建築物の調査について、その成果をどのようなかたちで発表するのか、方針がまだ決まっていない。建築物の調査結果を別巻として独立させ発表するのか、それとも近現代の史料編の中に組み入れるのか、早急に方針を決定する必要がある。</p>		
今後の調査予定・刊行見込み	<p>2025年度に史料編第1巻を刊行する予定である。</p> <p>史料編第2巻（昭和初期以降）については、調査・収集が不十分な分野が少なくない。史料編第2巻の編さんをにらんだ史料の調査・収集にも努めてゆく。</p>		

部会名	民俗部会	部会長名	
令和6年度活動計画	引き続き金田地区を中心に聞き取りや現地調査を進めるが、情報が得られればヤマやマチバ、カワについての調査も行う。また、報告書の編成を決定し、調査報告書の作成を開始する。		
現在までの実施内容・進捗状況	新型コロナウイルス感染症のため中断していた調査を再開した。再開にあたり、編さん委員の異動のため当初マチバから行っていた調査をウミからに変更し、令和6年2月から金田地区の巡見、図書館・市史編さん室での文献調査などを行った。また、部会委員それぞれの担当分野を決め、当初4冊と計画していた調査報告書の編成の見直しについて再考を開始した。		
これまでの取組での課題点・懸案事項	部会委員が集まることが日程的に困難なこと、話者などの調査対象の減少が民俗編を刊行に向けて進める中で課題となっている。調査報告書をどのように編成するかやデジタルコンテンツの内容の決定が懸案事項としてあげられる。		
今後の調査予定・刊行見込み			

部会名	自然部会	部会長名	山田 真
令和6年度活動計画	<p>「木更津市史 自然編 資料」の刊行  「木更津市史 自然編（本編）」調査・執筆  必要に応じて現地調査を行う</p>		
現在までの実施内容・進捗状況	<p>「木更津市史 自然編 資料」の最終校正（6月末まで）  すでに提出済みものも多いが細かく見ると多数の訂正箇所がある  「木更津市史 自然編（本編）」調査・執筆  目次案の調整中である  執筆方針についても部会委員間で差異があり、今後の意見調整が必要である</p>		
これまでの取組での課題点・懸案事項	<p>部会委員の高齢化が進み、新規委員の発掘が求められる  「木更津市史 自然編 資料」で触れられていない生物群、特に蘚苔類、藻類、菌類、地衣類の調査が必要であり、それぞれの専門家を探すことが急務である</p>		
今後の調査予定・刊行見込み	<p>「木更津市史 自然編 資料」の刊行（2024年12月）</p>		